

平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年2月8日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社 翻訳センター
 コード番号 2483 URL <http://www.honyakuctr.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 東 郁男

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長兼総務部長 (氏名) 中本 宏

TEL 06-6282-5013

四半期報告書提出予定日 平成25年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	5,162	31.8	252	△2.4	253	△0.8	112	△11.4
24年3月期第3四半期	3,916	15.4	258	49.6	256	57.3	126	35.6

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 113百万円 (△8.7%) 24年3月期第3四半期 124百万円 (34.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	6,649.24	—
24年3月期第3四半期	7,510.72	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円	%	百万円	%	%
25年3月期第3四半期	3,516		2,341		66.4
24年3月期	3,431		2,304		67.0

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 2,338百万円 24年3月期 2,301百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	4,500.00	4,500.00
25年3月期	—	0.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	4,500.00	4,500.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,300	31.8	520	18.1	520	18.2	280	22.9	16,622.14

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有

株式会社 アイ・エス・エス
新規 2社 (社名) 株式会社 アイ・エス・エス・インスティテュート、除外 1社 (社名)
ユート

詳細は、添付資料P. 3「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (1)当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

詳細は、添付資料P. 3「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

25年3月期3Q	16,845 株	24年3月期	16,845 株
----------	----------	--------	----------

② 期末自己株式数

25年3月期3Q	— 株	24年3月期	— 株
----------	-----	--------	-----

③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期3Q	16,845 株	24年3月期3Q	16,845 株
----------	----------	----------	----------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	2
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 継続企業の前提に関する注記	7
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	7
(5) セグメント情報等	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、東日本大震災後の復興需要などを背景として企業収益に持ち直しの動きがあるものの、長引く欧州債務危機や世界景気の減速などにより、景気回復の動きに足踏みがみられ、依然として先行き不透明な状況が続きました。

このような環境のもと、当社グループでは平成25年3月期から平成27年3月期までを対象とする第二次中期経営計画を昨年9月に発表、「すべての企業を世界につなぐ言葉のコンシェルジュ」という経営ビジョンを策定し、言葉に関する事業領域の拡大による新たな価値創造を推進させていく方針を発表いたしました。その一つの施策として、昨年9月に株式会社アイ・エス・エスの株式を取得し、連結子会社としております。

これらの結果、当社グループの売上高は、前年同期比31.8%増の5,162百万円となりました。利益面につきましては、昨年5月に実施した大阪本社移転に伴う一時的な経費増と体制強化のための採用増により、営業利益は前年同期比2.4%減の252百万円、経常利益は前年同期比0.8%減の253百万円、四半期純利益は前年同期比11.4%減の112百万円となりました。

各セグメントの業績は次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

① 翻訳事業

翻訳事業については、特許分野は、特許事務所からの電気関連の出願用明細書の大幅な受注増加に加え、企業の知的財産関連部署との取引が順調に推移したことから、売上高は前年同期比16.7%増の1,274百万円となりました。医薬分野は、年間契約を締結した複数のメガファーマからの受注や国内外の製薬会社・医療機器関連企業からの受注が堅調に推移し、前年同期比7.8%増の1,401百万円となりました。工業分野は、自動車関連企業からの受注増加や海外への工場移設関連資料の受注が継続したことから、売上高は前年同期比19.7%増の1,247百万円となりました。金融分野は、企業の管理部門からの案件獲得や法律事務所からの受注が回復傾向にあるものの、国内外の金融機関からの受注低迷とディスクロージャー関連資料の受注量減少により、売上高は前年同期比0.4%減の333百万円となりました。これらの結果、翻訳事業の売上高は前年同期比11.8%増の4,262百万円となりました。

② 派遣事業

派遣事業については、株式会社HCランゲージキャリアの業績が好調であったことに加え、ISSグループの派遣事業を新たに連結対象としたことから、売上高は前年同期比293.9%増の540百万円となりました。

③ その他

その他のセグメントについては、昨年9月に連結対象としたISSグループの通訳者／翻訳者育成事業ならびに通訳／国際会議運営事業が好調に推移したことから、売上高は前年同期比1,228.7%増の465百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は2,782百万円となり、前連結会計年度末に比べ275百万円減少いたしました。これは主に連結子会社の増加により売掛金などが増加したものの、短期借入金の返済および子会社株式の取得などにより現金及び預金が471百万円減少したことによるものであります。固定資産は733百万円となり、前連結会計年度末に比べ360百万円増加いたしました。これは主に連結子会社の増加によりのれんが増加したことによるものであります。

この結果、総資産は3,516百万円となり、前連結会計年度末に比べ85百万円増加いたしました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は993百万円となり、前連結会計年度末に比べ18百万円増加いたしました。これは主に未払法人税等が減少したものの、連結子会社の増加により買掛金および未払金などが増加したことによるものであります。固定負債は181百万円となり、前連結会計年度末に比べ29百万円増加いたしました。これは主に連結子会社の増加により退職給付引当金が増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は1,175百万円となり、前連結会計年度末に比べ47百万円増加いたしました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は2,341百万円となり、前連結会計年度末に比べ37百万円増加いたしました。これは主に四半期純利益の計上112百万円および剰余金の配当75百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年3月期の業績予想につきましては、平成24年9月13日付プレスリリース「業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表いたしました数値からの変更はございません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第2四半期連結会計期間より、株式会社アイ・エス・エスの株式を取得したため、同社並びに同社の子会社である株式会社アイ・エス・エス・インスティテュートおよび株式会社アイ・エス・エス・コンサルティングを連結の範囲に含めております。

また、株式会社アイ・エス・エスおよび株式会社アイ・エス・エス・インスティテュートは、当社の特定子会社に該当しております。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）

当社および国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益および税金等調整前四半期純利益はそれぞれ1,126千円増加しております。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,970,624	1,499,048
受取手形及び売掛金(純額)	912,209	1,041,884
仕掛品	61,390	83,113
その他	114,441	158,759
流動資産合計	3,058,665	2,782,805
固定資産		
有形固定資産	48,712	85,825
無形固定資産		
のれん	12,428	266,851
その他	108,069	120,817
無形固定資産合計	120,498	387,669
投資その他の資産	203,705	260,354
固定資産合計	372,916	733,849
資産合計	3,431,582	3,516,654
負債の部		
流動負債		
買掛金	448,375	490,057
未払法人税等	134,644	43,733
賞与引当金	110,862	82,096
その他	281,232	377,900
流動負債合計	975,114	993,788
固定負債		
退職給付引当金	104,005	136,876
役員退職慰労引当金	45,900	35,400
その他	2,325	8,971
固定負債合計	152,231	181,248
負債合計	1,127,345	1,175,037
純資産の部		
株主資本		
資本金	588,443	588,443
資本剰余金	478,823	478,823
利益剰余金	1,245,216	1,281,420
株主資本合計	2,312,482	2,348,686
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△1,044	△78
為替換算調整勘定	△9,923	△10,443
その他の包括利益累計額合計	△10,968	△10,521
少数株主持分	2,721	3,452
純資産合計	2,304,236	2,341,617
負債純資産合計	3,431,582	3,516,654

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
売上高	3,916,116	5,162,552
売上原価	2,215,097	2,908,022
売上総利益	1,701,019	2,254,530
販売費及び一般管理費	1,442,424	2,002,226
営業利益	258,594	252,304
営業外収益		
受取配当金	225	725
受取手数料	576	576
その他	439	1,487
営業外収益合計	1,240	2,788
営業外費用		
為替差損	3,793	1,219
営業外費用合計	3,793	1,219
経常利益	256,041	253,874
特別損失		
固定資産除却損	538	—
特別損失合計	538	—
税金等調整前四半期純利益	255,502	253,874
法人税等	128,984	141,128
少数株主損益調整前四半期純利益	126,518	112,745
少数株主利益	—	738
四半期純利益	126,518	112,006

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	126,518	112,745
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△53	966
為替換算調整勘定	△2,413	△527
その他の包括利益合計	△2,467	438
四半期包括利益	124,050	113,183
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	124,050	112,452
少数株主に係る四半期包括利益	—	731

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間（自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	翻訳事業	派遣事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,807,219	94,874	3,902,093	14,022	3,916,116
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,284	42,429	45,714	21,020	66,734
計	3,810,504	137,304	3,947,808	35,043	3,982,851
セグメント利益又は損失(△)	271,750	6,927	278,678	△14,489	264,188

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外国出願支援事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	278,678
「その他」の区分の損失(△)	△14,489
セグメント間取引消去	620
のれんの償却額	△6,214
四半期連結損益計算書の営業利益	258,594

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間（自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	翻訳事業	派遣事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,257,134	497,770	4,754,905	407,646	5,162,552
セグメント間の内部売上高 又は振替高	5,761	43,179	48,940	57,996	106,936
計	4,262,896	540,950	4,803,846	465,642	5,269,489
セグメント利益又は損失(△)	250,642	△22,233	228,409	47,892	276,302

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外国出願支援事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第2四半期連結会計期間において、株式会社アイ・エス・エスの株式を取得したことにより、主に派遣事業で資産が増加し、他の報告セグメント等を含めた総額では614,393千円増加しております。

3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	228,409
「その他」の区分の利益	47,892
セグメント間取引消去	833
のれんの償却額	△24,831
四半期連結損益計算書の営業利益	252,304

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

第2四半期連結会計期間において、株式会社アイ・エス・エスの株式を取得したことにより、のれんが279,254千円増加しておりますが、当該のれんは複数の報告セグメント等に関わるのれんであるため、報告セグメントごとの配分は行っておりません。

5. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、「その他」に含めていた「派遣事業」について、量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。